離島における生活満足度・地域愛着度と定住意識の関連性

Relationship among life satisfaction, emotional attachment to the region and settled consciousness in an isolated island

佐藤徹治研究室　1224107　古賀　奨
1224233　中島太郎
1224236　中山晃一

1. はじめに

近年、日本では全国的に高齢化が進み将来的にはさらなる人口減少、高齢化比率の増加が予測されている。特に離島においてはこの傾向が強く、地域社会を維持するためには定住者の増加やUターンなどの島外からの移住者の増加が不可欠である。

離島の住民を対象とした生活満足度・地域愛着度の要因に関する最近の既存研究としては、岡山(2008)[1)]や濱野ら(2012)[2)]が挙げられる。しかし、離島における生活満足度・地域愛着度と定住意識・U ターン意識の関係を分析した研究はみられない。そこで、本研究では、島民の生活満足度、地域愛着度および定住意識・U ターン意識の評価項目を定義し、東京都大島町を対象として、これらの因果関係を共分散構造分析を用いて分析する。

2. 定住意識の評価項目・指標

本研究では、定住意識、U ターン意識は生活満足度と地域愛着度に影響を受けると仮定する。生活満足度、地域愛着度の評価項目は、WHO の QOL26[3)]の社会的領域・環境的領域内の各項目を振り分けて設定する。

表－1　評価項目・評価指標一覧

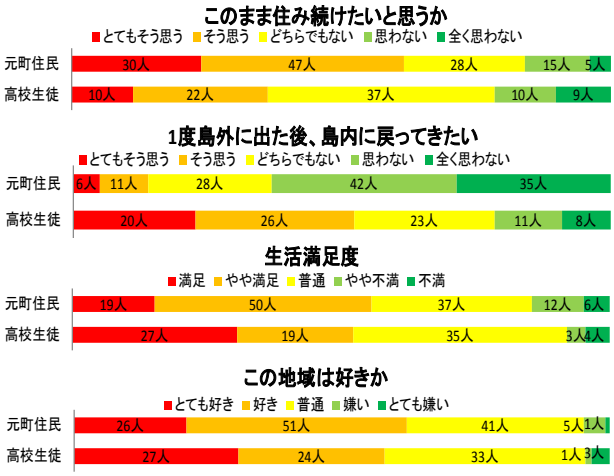
評価項目		評価指標
生活満足度	金銭関係	年収・貯金の多さ
		借金の少なさ
		現在の仕事内容
		選択できる職種の多さ
	医療・福祉サービス	医療サービスの利用しやすさ
		福祉サービスの利用しやすさ
生活満足度 地域愛着度	交通・移動	自家用車の保有
		日常施設までの平均所要時間
		非日常施設までの平均所要時間
		公共交通機関の利用しやすさ
	余暇活動	余暇を楽しめる施設の利用状況
	人間関係	家族との人間関係
		職場での人間関係
		近隣住民との人間関係
		友人との人間関係
		観光客との交流
	居住環境	住居の静けさ
		住居の広さ
		風通しの良さ
		眺めの良さ
		日当たりの良さ
	地域環境	気温の快適性
		天気の快適性
	安全・安心	治安の良さ
		交通事故の少なさ
		災害安全度の高さ

各評価項目の評価指標は、既存研究[4)]等に基づき設定する。表－1 に評価項目・評価指標の一覧を示す。

3. アンケート調査

表－1 の各評価項目、評価指標の実態を把握するため、本研究では 2015 年 9 月 28 日～30 日に東京都大島町でアンケート調査を実施した。調査票は、元町 1～4 丁目の 591 世帯（一世帯につき二部配布）と都立大島高等学校の全生徒 106 人に配布し、元町の住民 591 世帯中 175 世帯（回答率 30%）、高校全生徒 106 人中 100 人（回答率 94%）からの回答を得た。元町の住民と高校生徒の定住意識、U ターン意識、生活満足度、地域愛着度の回答結果を図－1 に示す。

回答結果から、生活満足度、地域愛着度は元町住民と高校生徒共に高評価が多いこと、元町住民は定住意識が強く、高校生徒は U ターン意識が強いことが分かる。また高校生徒に一度島外に出たい理由について尋ねたところ、大学への進学予定があること、娯楽施設が島内に少ないことなどが挙げられた。



図－1　アンケート調査の回答結果

4. 共分散構造分析

共分散構造分析におけるパス図を設定するにあたり、アンケート調査の個票データを用いた因子分析を行い、各評価項目に関連する評価指標の絞り込み、共通因子の抽出を行う。元町住民については、共通因子として「金銭的余裕」「移動のしやすさ」「災害対策」「日常施設」「気象環境」「商業施設」「居住環境」「人間関係」が抽出された。高校生徒については「人間関係」「日常施設」「移動の

しやすさ」「災害対策」「安心度」が抽出された。

元町住民と高校生徒について、抽出された共通因子、評価項目を用いて共分散構造分析を行う。なお、定住意識、U ターン意識は地域愛着度と生活満足度に影響を受けると仮定する。図－2 に元町住民の分析結果、図－3 に高校生徒の分析結果を示す。

元町住民については、CFI が 0.920、モデル全体の RMSEA が 0.054 となり説明力の高い分析結果が得られた。分析結果から、元町住民の定住意識には「地域愛着度」が大きな影響を与えていることが読み取れる。これは、元町住民には年齢層が高めで比較的居住年数が長い人が多いことが関連していると考えられる。また、各施設までの「移動のしやすさ」と「居住環境」が「生活満足度」に影響を与えていることや、「地域愛着度」「生活満足度」には「人間関係」が影響をしていることが示唆される。さらに、「災害対策」に「金銭的余裕」が影響を与えていることも読み取れる。これは 2013 年 10 月に起きた土砂災害の支援金や義援金の支給が関連していると考えられる。

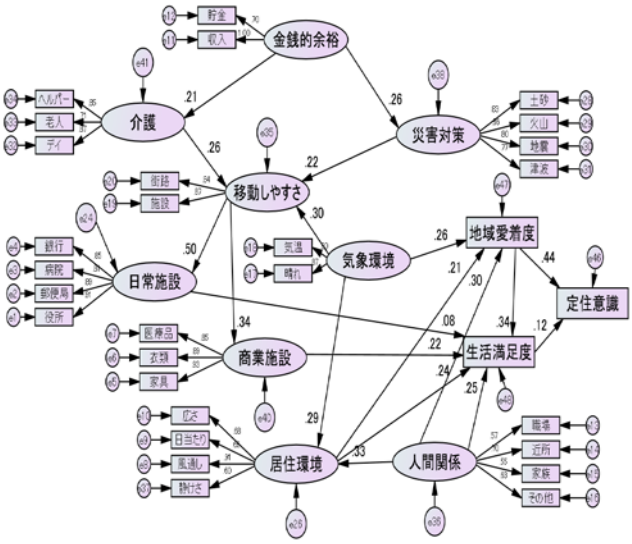
高校生についても CFI が 0.916、モデル全体の RMSEA が 0.091 と説明力の高い分析結果が得られた。高校生徒の「U ターン意識」には、「生活満足度」が影響を与えていること、「生活満足度」には「人間関係」「地域愛着度」が強く影響していることが読みとれる。また、「安心度」が「災害対策」を介して「地域愛着度」に影響を与えていること、さらには「人間関係」を介して「生活満足度」に影響を与えていることが示唆され、「人間関係」「安心度」「日常施設」「災害対策」が「地域愛着度」を介して「生活満足度」に影響を与えていることが分かる。

5. まとめ

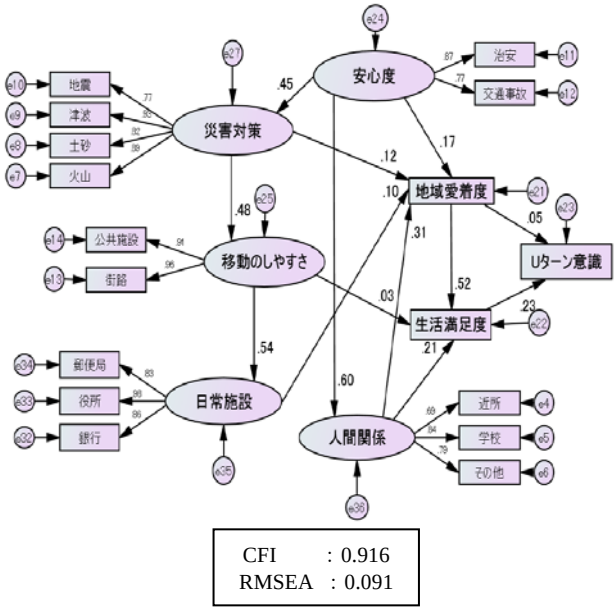
本研究では、島民の生活満足度、地域愛着度、定住意識、U ターン意識の評価項目を定義し、因子分析を用いて抽出した共通因子の因果関係について共分散構造分析を行った。

分析結果より、「定住・U ターン意識」と「地域愛着度・生活満足度」との関係には高校生徒以外の住民と高校生徒との間には認識に違いがあること、住民・高校生徒とも人間関係が定住意識やUターン意識に影響を与えていることなどが示唆された。

今後の課題として、分析結果を用いてワークショップの開催、パブリックスペースの充実や既存施設の利活用、住宅の空き部屋を観光客や学生向けのホームステイ先としての提供などによる人間関係の向上、カーシェアリング、コミュニティーバスの導入による交通アクセス性の向上、災害対策の推進とハザードマップの視認性の向上等が定住意識に及ぼす影響を分析し、定住意識、U ターン意識を高める地域政策の検討が挙げられる。



図－2　元町住民の分析結果



図－3　高校生徒の分析結果

参考文献

1) 岡山正人(2008) ：過疎・高齢化地域に住む高齢者を対象としたモビリティと生活満足度に関する意識構造分析－大崎上島を事例として－日本都市計画学会都市計画論、pp. 43-3、pp. 901-906

2) 濱野香苗・堀内啓子(2012) ：離島在住高齢者の QOL へのインフォーマルサポート等の関連、日本看護研究学会雑誌、pp. 45-55

3) 世界保健機関・精神保健と薬物乱用予防部=編、田崎美弥子・中根允文=監修(1997) ：WHO QOL26

4) 征矢伸平・宮橋政之・佐藤徹治(2015) ：木造密集市街地における生活満足度・地域愛着度・幸福度の実態と要因分析－東京都墨田区京島を対象として－、土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集(CD-ROM)、Vol. 42、No. 4、Ⅳ-38